令和５年度　東京都内湾水生生物調査　６月鳥類調査　速報

●実施状況

令和５年６月１日に鳥類調査を実施した。天候は晴れ時々曇りで、気温 21.8～24.6℃、南寄りの風、風速 0～5.6m/sec であった。調査当日は中潮で、干潮が９時 11 分（44cm）、満潮は 15 時 45 分（169cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	10:07-11:13	8:30-9:20	11:57-12:53
天候	晴	晴	曇
気温(℃)	22.7	21.8	24.6
風向	南	－	南
風速（m/sec）	0.5	無風	5.6
備考	干潟は広く干出。ヨシ原でオオヨシキリが多数さえずっていた。	干潟は広く干出。	風が突然強くなり、波もやや高かった。海浜公園側で屋形船が運航。砂浜に人は少なかった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった鳥類上位２種	ウミネコ(941 羽)	カワウ(232 羽)	カワウ(2600 羽)
	カワウ(667 羽)	コサギ(10 羽)	アオサギ(27 羽)
備考	・コチドリ、オオセグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ等、重要種として 10 種を確認。 ・3 種のシギ・チドリ類が確認され、すべて干潟で採餌。 ・コアジサシは鳴き声のみ。 ・干潟の汀線付近でカワウとウミネコの群れが休息。 ・干潟や水たまり、浅瀬でサギ類が採餌。 ・沖合でカワウとウミネコ、ミサゴを確認。	・シロチドリ、コアジサシ、ミサゴ、ハヤブサ等、重要種として７種を確認。 ・シロチドリ１羽が干潟で採餌。 ・干潟でカワウが休息、汀線から浅瀬でアオサギ、ダイサギ、コサギが採餌。 ・コアジサシは上空を飛ぶ２羽を確認。森ケ崎水再生センター屋上での営巣は５月 28 日の時点で１巣のみ。 ・杭上でミサゴが休息、ハヤブサが干潟上空を飛翔後、羽田空港の塔上で休息。	・キョウジョシギ等、重要種として５種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場 79 巣、鳥の島 28 巣で合計 107 巣。巣内に大きな雛が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を確認。個体数は合計 2600 羽で過去最多。 ・サギ類はアオサギとダイサギ、コサギを確認。アオサギは頭部に幼綿羽（ようめんう）を残す幼鳥が見られたが、第六台場で繁殖したと断定できる情報は得られなかった。 ・鳥の島でキョウジョシギが採餌。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和5年																重要種 選定基準			
				5月								6月											
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園				文化財保護法	種の*1保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RL2020 (区部)
				範囲内	沖合	合計		第六台場	鳥の島	公園側	合計	範囲内	沖合	合計		第六台場	鳥の島	公園側	合計				
1	カモ	カモ	カルガモ	2		2	11		5		5	2		2	1	1	3		4				
2			スズガモ	3		3			3		3												留
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	2		2																	留
4	カツオドリ	ウ	カワウ	353	14	367	82	1274	705	2	1981	654	13	667	232	1861	737	2	2600				
5			ウミウ	1		1																	
6	ペリカン	サギ	アオサギ	4		4	5	12	3		15	6		6	9	11	16		27				
7			ダイサギ	12		12	1	1			1	11		11	7	1	1		2				NT
8			コサギ	7		7	15	5	1		6	17		17	10	2	2		4				VU
9	チドリ	チドリ	ダイゼン	1		1						1		1									VU
10			コチドリ				3					1		1									CR
11			シロチドリ	3		3									1							VU	CR
12		シギ	オオソリハシシギ	2		2																VU	EN
13			チュウシャクシギ	18		18	2		3		3												VU
14			アオアシシギ	3		3																	NT
15			キアシシギ	15		15	2		11	2	13												VU
16			メリケンキアシシギ						1		1												
17			ソリハシシギ	2		2						2		2									VU
18			イソシギ	6		6	2		2		2												VU
19			キョウジョシギ	15		15	11		59	13	72						1		1				VU
20			ミユビシギ	2		2																	EN
21			トウネン	9		9																	VU
22			ハマシギ	11		11			1		1											NT	VU
23		カモメ	ユリカモメ	20		20																	
24			ウミネコ	456	1	457						869	72	941	3		5		5				留
25			オオセグロカモメ	3		3						2		2								NT	
26			コアジサシ				3					3		3	2							VU	EN
27	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1							1	1	1							NT	EN
28		タカ	トビ	2		2		5			5	4		4		2			2				NT
29	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ												1						国内	VU	EN
30	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ	1		1	2	1			1				2			1	1				
計8目11科30種				25 種	3 種	26 種	12 種	6 種	11 種	3 種	14 種	12 種	3 種	13 種	11 種	6 種	7 種	2 種	9 種	0 種	1 種	7 種	22 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会,2012)に従った。

*1　文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2　種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3　環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

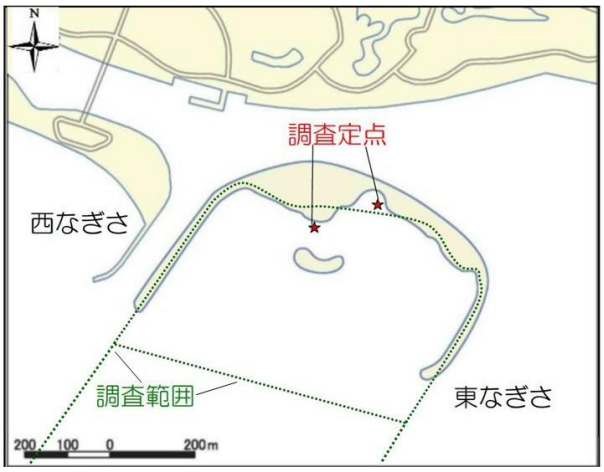
*4　東京都レッドリスト(区部)2020年版：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

＜葛西人工渚(東なぎさ)＞

〇調査地点の状況

干潟は広く干出していた。

西側の地点より南西方向を見る



〇出現種(シギ・チドリ類)

シギ・チドリ類は少なく、3 種が干潟で採餌していた。このうちダイゼンとソリハシシギは東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、コチドリは絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されている。

ダイゼン

コチドリ

ソリハシシギ

〇出現種(カモメ類)

ウミネコとオオセグロカモメの 2 種が主に干潟で休息するのが確認された。個体数が多いのはウミネコで 869 羽、オオセグロカモメは 2 羽のみであった。ウミネコは東京都レッドリストで留意種に、オオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。

ウミネコ

オオセグロカモメ

〇干潟利用状況

干潟でカワウ、ウミネコの群れとオオセグロカモメが休息していた。汀線付近や水たまりではサギ類やシギ・チドリ類が採餌していた。コアジサシは鳴き声が聞かれたが、姿は確認できなかった。

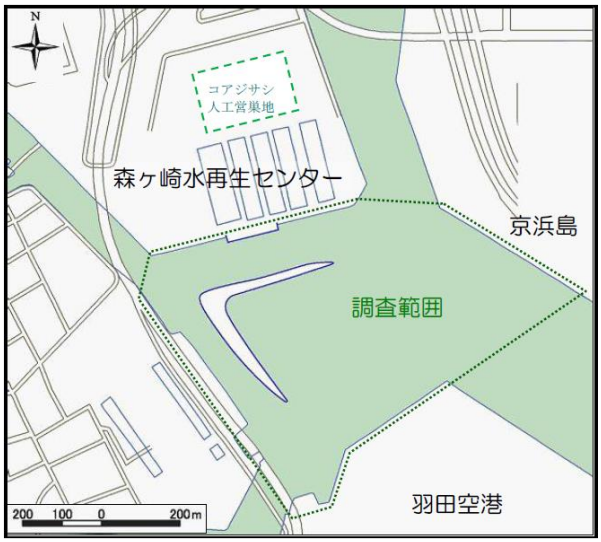
採餌するダイサギ（矢印）とコサギ

カワウの群れとウミネコ（矢印）

＜森ヶ崎の鼻＞

〇調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



〇出現種（コアジサシ）

コアジサシは上空を飛ぶ 2 羽が確認された。NPO 法人リトルターン・プロジェクトによれば、5 月 28 日に森ヶ崎水再生センターで 5 羽のコアジサシが確認され、1 巣だけが営巣中である。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類（EN）に指定されている。

https://littletern.hatenablog.com/entry/2023/05/29/232642

〇出現種（シギ・チドリ類）

干潟で採餌するシロチドリ 1 羽が確認された。NPO 法人リトルターン・プロジェクトによれば、5 月 28 日に森ヶ崎水再生センターで成鳥 1 羽と雛 3 羽が確認されている。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、東京都レッドリストで絶滅危惧 IA 類（CR）に指定されている。

〇出現種（猛禽類）

杭にとまるミサゴと、干潟上空を飛翔した後で羽田空港内の塔にとまるハヤブサが確認された。ミサゴは環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類（EN）に、ハヤブサは種の保存法で国内希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）、東京都レッドリストで絶滅危惧ⅠB 類（EN）に指定されている。

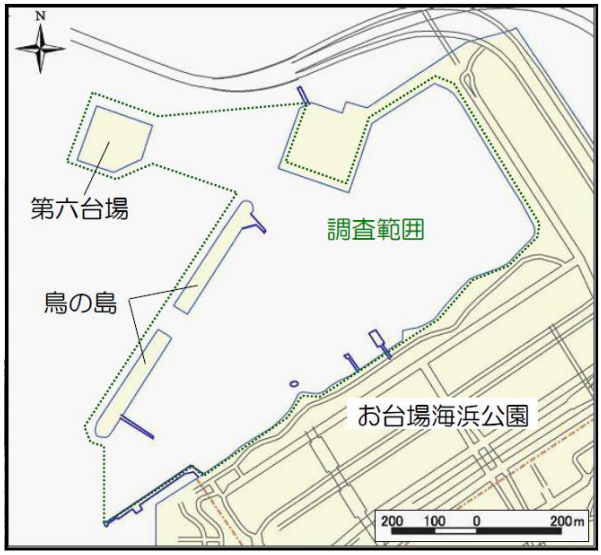
〇干潟利用状況

カワウの群れが干潟で休息、コサギとダイサギ、アオサギが汀線から浅瀬で主に採餌していた。

＜お台場海浜公園＞

〇調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



〇出現種（カワウ）

営巣数は 5 月より減少したが、第六台場で 79 巣、鳥の島で 28 巣、合計 107 巣が確認された。巣内には大きく育った雛が見られ、第六台場の護岸や樹林、鳥の島で幼鳥が多く見られた。成鳥と幼鳥を合わせた個体数は、これまで最多だった令和 3 年度の 1820 羽を超え、2600 羽を記録した。

巣内の雛

樹上にとまる成鳥と幼鳥

〇出現種（サギ類）

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が第六台場や鳥の島で確認された。アオサギは頭部に幼綿羽（ようめんう）を残す幼鳥が確認されたが、飛翔可能な状態まで育っているため、他から移動してきた可能性が残る。古巣等、お台場で繁殖した事を示す痕跡は見つからなかった。ダイサギは東京都レッドリストで準絶滅危惧（NT）に、コサギは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

アオサギ幼鳥　右は幼綿羽（矢印）が残る頭部の拡大

ダイサギ

コサギ

〇出現種（シギ・チドリ類）

鳥の島の護岸で採餌するキョウジョシギ 1 羽が確認された。本種は東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

＜その他＞

〇ウミネコの繁殖

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 67 羽が確認され、そのうち 10 羽が営巣中と考えられた。京葉線の高架では少なくとも 2 巣が確認された。雛は 4 羽を見ることができたが、構造物の陰になって巣内が見えないため、全体の個体数は把握できなかった。

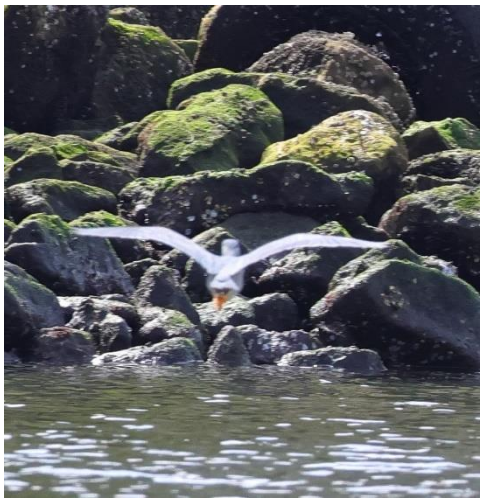
ウミネコが営巣する構造物

京葉線の高架での営巣

ウミネコの雛

成鳥と雛（矢印）

＜トピックス＞

－ササゴイの記録－

本調査におけるササゴイの記録は令和 3 年 9 月以降得られていないが、今回の調査で移動途中に観察された。確認場所は森ヶ崎の鼻に近い京浜運河の大和大橋と新平和橋の間で、飛翔後、護岸に着地した。